伊5
1088
1

明治 伊5
諸 1088
巻 1

日本王代一覽卷之一目錄

一 神武天皇 一葉 在位七十六年
二 綏靖天皇 二葉 在位三十三年
三 安寧天皇 三葉 在位三十八年
四 懿德天皇 四葉 在位三十四年
五 孝昭天皇 五葉 在位八十三年
六 孝安天皇 六葉 在位百二年
七 孝靈天皇 七葉 在位七十六年
八 孝元天皇 八葉 在位五十七年
九 開化天皇 九葉 在位六十年

明治廿五年十一月廿七日
森鴻次郎氏寄贈

十 四葉 崇神天皇 在位六十八年
一十 五葉 垂仁天皇 在位九十九年
二十 六葉 景行天皇 在位六十年
三十 九葉 成務天皇 在位六十年
四十 九葉 仲哀天皇 在位九年
五十 十葉 神功皇后 在位六十九年
六十 十三葉 應神天皇 在位四十一年
七十 十四葉 仁德天皇 在位八十七年
八十 十六葉 履中天皇 在位六年
九十 十七葉 反正天皇 在位六年

十一 十八葉 允恭天皇 在位四十二年
一九 十九葉 安康天皇 在位三年
二九 廿葉 雄略天皇 在位廿三年
三九 廿葉 清寧天皇 在位五年
四九 廿一葉 顯宗天皇 在位三年
五九 廿二葉 仁賢天皇 在位十一年
六九 廿三葉 武烈天皇 在位八年
七九 廿三葉 繼體天皇 在位廿五年或廿八年
八九 廿四葉 安閑天皇 在位二年
九九 廿四葉 宣化天皇 在位四年

(十三)欽明天皇　在位三十二年
(一卅)敏達天皇　在位十四年
(二卅)用明天皇　在位二年
(三卅)崇峻天皇　在位五年
(四卅)推古天皇　在位三十六年
(五卅)舒明天皇　在位十三年
(六卅)皇極天皇　在位三年
(七卅)孝徳天皇　在位十年　大化五年号始　白雉五
(八卅)齊明天皇　在位七年

日本王代一覽卷之一

人王一代

神武天皇　天照大神ヨリ五代。鸕鷀草葺不合尊第四ノ御子ナリ。御母ヲ玉依姫ト申ス。龍神ノ娘ナリ。神武御年十五ニテ。太子ニタチタマフ。御年四十五ノ時。日向國ヨリ船軍ヲヨコレ。筑紫ヲ平ゲ。安藝國ヘ出タニ。其ヨリ吉備國ヘ到リタマヒテ。兵船ヲトヽノヘ。兵粮ヲアツメ。三年逗留シタマフ。吉備國ハ今ノ備前備中備後ナリ　其ヨリ難波河内ヲ歴テ。大和國孔舍衛坂ト云所ニテ。長髓彦トイヘル大敵ト合戰シ。又紀伊國名草熊野ニテ。度々合戰ス。海上ニテ風ニアヒテ。官軍利ヲ失テ。神武ノ御兄三人。所々ニテウセタマヒヌサレドモ神武ノ

兵威次第ニ強クシテ長髓彦ヲ始トシテ菟田
兄猾八十梟帥兄磯城ナド云ル數多ノ大敵悉ク滅
シカハ甲寅ノ年二日向國ヲ出タヽヒシヨリ十年ヲ歴
テ辛酉ノ年大和國畝傍山ノ如開テ始テ内裏ヲ作
リ帝位ニツキタヽフ是ヲ橿原宮ト申ス即是神武
天皇ノ元年ナリ宇摩志麻治命ト道臣命ト兩人
武功勝レタルニヨリテ軍兵ヲ召具シ内裏ヲ警固ス
道臣命ノ司ル軍兵ヲハ來目部トイフ宇摩志麻治
命ノ司ドル所ヲハ物部トイフ今ニ至ルマテ武士ヲモ
ノヽフトイフコヽハ是ヨリ始レリ天種子命天富命左
右ニ侍リテ政ヲ執行フ天種子命ハ天兒屋根命春日明神
ノ末ニテ藤原氏ノ先祖也又宇摩志麻治命ト

天部日方命トヲ以テ申食國政大夫トス此官ハ後
世ノ大臣ノ儀ナリ天皇アルトキ高キ丘ニ登テ此
國狀蜻蛉ニ似タルヲ見テ始テ秋津洲ト名ヅケ
ラル蜻蛉ハカゲラフト云虫也天皇在位七十六
年ニシテ崩御ミシマス御年百二十七　此御代ノ
元年異朝ニテハ周ノ惠王ノ十七年ニ當レリ

二代

綏靖天皇　神武ノ太子ナリ御母ヲ媛蹈鞴五十鈴媛ト
イフ大巳貴神ノ孫事代主神ノ娘也綏靖ノ別腹
ノ兄ヲ手研耳命トイフ年既ニタケテ神武ノ時
ヨリ政ニ預リシカハ世ヲ奪ノ志アリコレニヨリテ神
武崩御以後二年ノ間綏靖位ニ即コトアタハス其

同腹ノ兄神八井耳命ト談合シテ手研耳命ヲ射殺シテ綏靖即位シタマフ葛城高丘宮ニシレマス湯彦友命トイフ人政ヲ執行ヘリ在位三十二年ニシテ崩ス御年八十四

三代

安寧天皇　綏靖ノ太子ナリ御母ハ五十鈴依媛トイフ是モ事代主神ノ娘ナリ　此時都ヲ大和ノ片塩ニ遷シ浮孔宮ニシレマス出雲色命トイフ人政ヲ執行フ　在位三十八年崩ス御年五十七

四代

懿徳天皇　安寧ノ太子ナリ御母ヲ渟名底仲媛トイフ鴨王トイヘル人ノ娘ナリ　此代ニ都ヲ大和ノ軽地ニ遷シテ曲峽宮ニシレマス出雲色命政ヲ執行フ在位三十四年崩ス御年七十七　此御代元年異朝ニテ周ノ敬王十年ニアタレリ孔子此時ニ出タリ

五代

孝昭天皇　懿徳ノ太子ナリ御母ハ天豊津媛トイフ安寧ノ孫息石耳命ノ娘ナリ　此時都ヲ大和ノ掖上ニ遷シ池心宮ニシレマス出石心命瀛津世襲命政ヲ行フ在位八十三年ニシテ崩ス年百十四

六代

孝安天皇　孝昭ノ太子ナリ母ハ世襲足媛トイフ瀛津世襲命カ妹ナリ　此時ニ大和ノ室地秋津

嶋宮ト云トコロニマシマス在位百二年ニシテ崩ス歳
百三十七

七代

孝靈天皇　孝安ノ太子ナリ母ハ押媛ト云懿德ノ孫
天足彦國押人ノ娘ナリ　大和ノ黒田廬戸宮ト云
所ニマシマス
此帝ノ五年ニ近江國ノ地サケテ湖タヽヘ同時ニ駿
河國富士山初テアラハル、ト云傳ヘタリ在位七十
六年ニシテ崩ス歳百二十八　此代異朝ニテハ秦
ノ始皇ノ時ニアタリテ徐福ト云モノ蓬萊山不死
ノ藥ヲモトメントテ日本ヘワタリ富士山ニ留ルト
云傳タリ又紀州熊野ニモ徐福カ祠アリ

八代

孝元天皇　孝靈ノ太子ナリ母ハ細媛ト云磯城縣主
大目カ娘ナリ　大和ノ輕地境原宮ト云所ニマシ
ス欝色雄命トイフ人政ヲ行フ　在位五十七年ニ
シテ崩ス歳百十七

九代

開化天皇　孝元ノ太子ナリ母ハ欝色謎命ト云欝色
雄命カ妹ナリ　大和ノ春日率河宮ト云トコロニマ
シマス孝元ニミヤツカヘセル伊香色謎命ト云ル女ヲ
后トス后ノ父大綜麻杵命政ヲ行フ又伊香色雄
命モ政ヲ執タリ　在位六十年ニシテ崩ス歳百十五

十代

崇神天皇　開化ノ太子ナリ。母ハ伊香色謎命ト云。都ヲ大和ノ磯城ニ遷シテ。瑞籬宮ニ住タマヒ。群臣ト天下ヲ治ムルコトヲ談合セラル。即位ノ初。疫病ハヤリケレバ。天皇其御娘豊鍬入姫ヲシテ。天照大神ヲ。大和ノ笠縫邑ニ祭奉ル。又渟名城入娘ヲシテ。大國魂神ヲ祭シム。然レドモ此姫神ノ心ニヤカナハザリケン。髪落体痩テ祭コトアタハズ。其後天皇潔齋シ。大物主神等ヲ。八百万神ヲ祭リシカバ。疫病ヤンデ國家ユタカナリ。大國魂モ大物主モ皆大巳貴神ノ事ナリ。三輪大明神是ナリ。其後大彦命ト。武渟河別ト吉備津彦ト。丹波道主命ト四人ヲ將軍トシテ。四方ノ國々ヘ遣シ。戎夷ドモヲ平ゲシム。是ヲ四道ノ將軍ト云。日本ニテ將軍ノ始ナリ。此時武埴安彦ト云ル人。謀叛シ。都ヲ奪カシケルカ。官軍相戰テ。武埴安彦亡ヌ。近國スデニ治ルニヨリテ。皇子豊城命ヲシテ。東國ヲ治シム。武諸區命ト云臣ニ。大連ト云官ヲサヅケ。政ヲ執シム。任那國ヨリ使者來テ。貢タテマツル。此國ハ三韓ノ内ナルヘシ。異國ヨリ貢ヲ獻スルコト是ヲ始トス。或説ニハ。任那國ヨリ來ル人。額ニ角アリ。船ニ乘テ越前笥飯浦ニ著タリ。故ニ其處ヲ角鹿ト名ク。笥飯ハ今ノ氣比ナリ。角鹿ハ今ノ敦賀ナリ　在位六十八年ニシテ崩ス。歳百二十

十一代

垂仁天皇　崇神ノ太子ナリ。母ハ御間城姫ト云。大彦命ノ娘ナリ。大和國纒向ニ都シ。珠城宮ニ住ス。新羅國ヨ

リ。天日槍ト云ル者來テ。鏡玉刀桙等ノ寶物ヲメテ
ニツル。天皇ノ后ヲ狹穂姫トイフ。后ノ兄ヲ狹穂彦
ト云フ。謀叛ノ志アリテ。ヒソカニ后ヲ呼テ。サヽグニカ
タラヒテ。劒ヲ授ケ。天皇ヲ弑レメントス。后ヲソルヽト
イヘドモ。辭スルコト叶ズ。劒ヲウケトル。或時天皇。后ノ
膝ヲ枕トシ。晝寢シタマフ。后如何セント案ジワヅラ
ヒ。覺ヘズ淚ヲチテ帝ノ顏ヘカヽル。此時帝ノ御夢ニ。
錦色ノ小蛇。御頸ニニツハルトミテ目サメヌ。此夢如何
ナル故ニヤト。后ニ尋ラル。后アリノヽニ申ス。天皇驚テ。
汝少シモ罪アラストテ。上毛野八綱田トイフ大將ニ
命ジテ。狹穂彦ヲ伐シム。狹穂彦稱ヲ積テ城トシテ
防戰フ。此時后悲ミテ。我兄ヲ伐セテハ。后トナリテ

モ面目ナシトテ其產トコロノ譽津別皇子ヲ抱テ兄ノ
城ヘ入ル。官軍彌ス、ミテ。后ト皇子トヲハ出スベキトイ
ヘドモ。狹穂彦同心セズ。八綱田火ヲ放テ城ヲ攻落ス。
皇子ハ抱キ取テ免レタリ。狹穂彦ハ后ト共ニ亡ヌ。此
皇子成人ノ後。三十ニ及ンデ。言コトアタハズ。或時鵠
ノ鳴テ飛ヲ見テ。是何物ゾト云テ。始テモノイフ
此御代ニ大和國ニ當麻蹶速トイヘル大力アリ。又
出雲國ニ野見ノ宿祢トイヘル勇士アリ。此兩人ヲ召
テ。力ヲクラベレム。野見力ヽサリテ。蹶速ガ脇骨ヲ折。
腰ヲ蹴テ殺ス。是日本ニテ相撲ノ初ナリ。野見ニハ。
蹶速ガ領地ヲ給リテ。都ニ留メテミヤヅカヘセレム。
此人道ヲ以テ人形其外樣々ノ器ヲツクルコトヲ司

トル。其子孫代々榮タリ。菅原氏モ子ノ末ナリ
武淳川別ト。彦國葺ト。大鹿嶋ト。十千根ト。武日ト。五
人ヲ大夫トシテ。政ヲ司シム　此帝ノ在位二十五年ニ
アタル三月ニ。皇女倭姫ヲシテ。天照大神ヲ。伊勢國五
十鈴川上ニ祠リ奉ラル。今ノ内宮コレナリ。倭姫ハ。齋
宮ノ始ナリ。八十六年ニ。初テ異朝ヘ使ヲ遣サル。後漢
ノ光武皇帝ノ末年ニアタレリ　在位九十九年ニシテ
崩ス。歳百四十。天下泰平ニシテ目出度御代ナリ

十二代

景行天皇　垂仁ノ太子ナリ。母ヲ日葉酢媛トイフ。丹波
道主ノ娘ナリ　天皇即位ノ後。美濃國ヘ行幸シ。其
ヨリ大和ヘ歸リ。纒向日代宮ニシレリス。其後筑紫熊

襲謀叛シケレハ。天皇追討ノタメ。筑紫ヘ行幸アリ。先
周防ノ國ニ赴キタマフ。此國ニ神夏磯媛トイヘル女人。
スクレタル大將ニテ。數多ノ人數ヲ率ケルカ。天皇ヘ
服シ。其國ノ敵共ヲ平ケ。其ヨリ豊前ノ國ニ到リ。
此國ノ岩窟ニ。土蜘蛛住ケルヲ平ケ。日向ノ國ヘ到リ。
高屋ノ宮ニ居タマフ。熊襲ノ大將八十梟師カ娘ヲ
召テ寵愛シ。即其娘ヲカタラヒテ。八十梟師ニ酒ヲ
勸テ是ヲ殺ス。此時海ノ八腹赤ノ魚ヲ天皇ニ奉ルコト
アリ。日向ノ國ニシレリスコト六年ニシテ。又筑紫ヲ廻リ
タマフ。或時夜中船ニ乘テ岸ニツクコトヲ知ラス。遥ニ火
ノ見エル處ヲミテ。船ヲ着タマフ。其所ヲ名ヅケテ。火ノ
國トイフ　今ノ肥前肥後兩國是也　此時阿蘇宮明神ト名リテ

出テ天皇三一三ユ其後天皇大和國ニ飯リタマフ年ヲ
歴テ熊襲又謀叛シケレハ皇子小碓尊ヲ大將トシテ
是ヲ討シム尊御歳十六ニ身ノ長一丈力強クシテ暴
ヲアク熊襲大將ヲ川上梟帥トイフ一族ヲ聚テ酒モ
リシケル所ヘ尊僞リテ女ノ形トナリテ往テ伺フ川上
是ヲ見テ美キ女ナリト思ヒタヅサヘテ一宿セシム夜ニ
入テ人ナキ時尊袖ノ内ヨリ劔ヲ拔テ川上カ胸ヲ刺
スル川上驚テ何者ゾト問フ尊アリノヽニ語ル川上申
ケルハ筑紫ノ内ニテ我ニ二サル大力ナシ然ルヲ今尊ニ
殺サル然レハ君ノ御名ヲ日本武尊ト申シタテマツル
ベシト云テ終ニ死ス尊即其一族ヲ平テ大和ヘ皈ル此ヨ
リヨリ日本武尊ト名乘タマフ其後東國ノ夷トモ謀
叛シケレハ今度ハ日本武尊ノ兄大碓皇子ヲ遣サルヘシ
ト沙汰アリケレトモ甚タヲソレテ逃竄ラルヽニヨリ又
日本武尊ヲ大將トシテ東國ヘ遣サル尊先伊勢大神宮
ヘ參リ倭姫ニ逢テ寶劔ヲ給リテ進發ス駿河國ニ到
ル時野ヘ出テ鹿ヲ狩ル夷共火ヲ放テ尊ヲ燒殺サン
トス尊ノ帶タマヘル寶劔自ラ拔テ燃來ル草ヲナギ
拂フ尊又燧ヲ打テ火ヲ放ツ其火敵ノ方ヘ向ヒモヘテ
敵悉ク燒殺サル寶劔ヲ草薙劔ト云ルハ此イハレナリ
其ヨリ相模ノ國ヘ到リ上總ノ海ヲ渡ル時風アラクテ
尊ノ船危カリケレハ尊ノ妾橘媛コレハ龍神ノ尊ヘ
タヽリヲナスナルヘシ君ノ命ニ替ントテ自海ニ沉ミヌ既
ニシテ風ヤミテ御舟岸ニ著ク其ヨリ陸奥國ニ到リ

蝦夷ヲ平ケ常陸ニ到リ筑波山ヲ歴テ甲斐國ヘ到リ
又武藏上野ヲ巡リテ碓日ノ坂ニ登リ東南ヲ望ミテ
橘媛ヲシタヒテアカツマトノタマフ東國ヲアツマト云
ハ此イハレナリ其ヨリ尊副將吉備武彦ヲ北陸道ヘ
遣シ尊ハ信濃ヲコヘテ美濃ヘ出武彦モ北陸道ヨリ
此所ヘ參會ス其ヨリ尊尾張ヘ出テ宮簀媛ヲ娶テ
暫ク逗留セラル近江國膽吹山ニ悪神アリト聞テ
尊歩ミテ山ヘ登ル山神大蛇トナリテ途ニ臥ス尊
其蛇ヲ蹈テ通リ過ク此時山中ニ雲霧起テ甚タ
暗シ尊ヤウヤク霧ヲシノヒテ山ヲ出其心ヒトヒテ酒
ニ醉ルガコトシ山下ノ泉ヲノミテ醒ス其泉ヲ醒井ト
云此ヨリ尊毒氣ニアタリ御身イタミ煩シキニヨリ

尾張ニ還リ伊勢ヘ移ル御痛イヨヤク甚キニヨリ武彦
ヲ使者トシテ東國ヲ平ケル趣ヲ天皇ニ申ス暫ク
アリテ尊ハ伊勢國能褒野ト云フ所ニテ隱レタマヒ
ス御歳三十後ニ白鳥ト化シテ大和國琴彈ノ原
ニ飛行ト云ツタヘタリ天皇甚タ歎キ悲ミタマフ
其後天皇武内宿祢ヲ以テ棟梁ノ臣トス諸臣ノ
カシラト云ノ義ナリ天皇晩年日本武尊ヲシタ
フコトヤマズシテ其平ケル處ヘヲ見ントテ自ラ東
國ヘ行幸ス其ヨリ都ヲ近江國志賀ニ遷シ三年住
タマヒ忠賀ニテ崩御セラル在位六十年御歳百
六御子七十餘人アリ皆國々郡々ヘ分千居シム
其子孫多シ

十三代

成務天皇　景行ノ御子。日本武尊ノ弟ナリ。母ハ八坂入媛ト云。八坂入彦皇子ノ娘ナリ。近江志賀ニ都ヲ立テ。高穴穂宮ニ住タマフ。武内宿祢ヲ以テ大臣トス。是大臣ノ始ナリ。國ヲ郡ヲ、ニ司サヲタテ。其所々ヘ武具ヲ分チツカハシ。山川田畠村里ノ境ヲ分チ定テ。百姓悦テ。天下無事ナリ　在位六十年ニ崩ス。御歳百七

十四代

仲哀天皇　日本武尊ノ御子。成務ノ姪ナリ。日本武大功アリシトモ早世ニヨリテ。帝位ニ即ス。故ニ成務ノ時此仲哀ヲ太子トシテ位ヲ譲ル。母ハ兩道入媛ト云。垂仁ノ娘ナリ　天皇即位シ。御父日本武尊ヲシタヒ。ヒタヽヒテ。諸國ニ訪シテ白鳥ヲタヅネツラシム。尊白鳥ト化シタルユエナリ。此時大伴武持ヲ大連トシ。大臣武内宿祢ニナラベテ。政ヲ行シム。後世ノ左右大臣ノ義ナリ。即位ノ明年越前角鹿ニ行幸シ。笥飯ノ宮ニ住タマフ。暫クアリテ。皇后并百官ヲハ角鹿ニ留テ。紀伊國ニ行幸ス。此時熊襲謀叛ノ由聞ヘケレハ。天皇ハ直ニ長門國ヘ行幸。后モ角鹿ヨリ長門國ヘ參會シ。豐浦ノ宮ニ住タマフ。其ヨリ筑紫ノ橿日宮ヘ遷テ熊襲ヲ討コトヲ謀ル。其折節皇后ヘアヤシキ神託アリテ。熊襲ヲバサシヲキ。新羅國ヲ討ルベシトツゲラルヘトイヘトモ。天皇同心セズ。自ラ兵ヲ率ヒ

テ熊襲ヲ討タミフ軍中ニテ御身煩シクシテ程ナク
崩御シタミフ或ハ賊ノ矢ニアタリタミフトモ云リ
在位九年御歳五十二越前氣比大明神ハ此天皇ヲ
崇メ祠ルトナン

十五代

神功皇后　仲哀ノ后ナリ開化天皇ノ曾孫氣長宿祢
ノ娘ナリ　皇后筑紫ニテ懐妊ノ内ニ仲哀崩御ア
リシカハ武内大臣ト相談シテ仲哀ノ崩御ヲカクシ官
軍ヲ遣シ熊襲ヲ討平シタ其外ノ謀叛人ヲモ皆シ
ヅメタミフ皇后神託ニヨカセ新羅ヲウタントヲホシ
メシテ肥前國松浦ノ河ニテ鉤ヲナゲテ我思フコトカ
ナフベクンバ此餌ヲハムベシト云テ鉤竿ヲアゲタミヘ
ハ細鱗魚ヲ得タリ今ニ至ルマテ此河ニ魚多シ女
人鉤トキハ魚ヲ得男鉤トキハ魚ヲ得ズトナン皇后
又橿日浦ニテ御髪ヲトキテ曰我西方ヲウタントス
其驗アルベクンバ我髪分テ兩トナルベシトテ御髪ヲ海
水ニヒタシ洗ヘハ忽兩方ヘ分レケレハ即其分ルヽニ
分チ束ネテ髪トシミ男子ノ貌ヲ假テ群臣ト征伐
ノコトヲ議シタミフ即諸國ヘ勅シテ船ヲアツメ武
具ヲトヽノヘ軍兵ヲメシアツム弩ト云ル大弓モ此時
始テ作レリ皇后ミツカラ斧鉞ヲ取テ諸軍ノ下知シ
タミフ住吉明神ノ靈出テ御舟ヲ守リ先鋒スト云ツ
タヘタリ此神ハ水神ナルユヘナリ其外アヤシキ事ド
モ多シ皇后石ヲ取テ御腰ニハサミ給ヒテ

願ハ胎内ノ皇子。征伐ヲハリテ還シ時ニ誕生シタマヘト
ノタマフ。御船スヱニ和珥津ヨリ出ルトキ。波風甚
アラカリケルガ。海中ノ大魚多ク浮ヒ出テ。御船ヲサ
レハサヘモリケレバ。波風モタヲヤカニナリテ。幾程モ
ナク。新羅ヘ著タマフ。新羅ノ王。大ニ恐レ是ハ日本ノ神
兵ナルベシトテ。拒コトアタハズ。自ラ四人トナリ。素キ
旗ヲ立テ降参シ。求ク日本ノ奴トナリテ。貢物ヲ捧ヘ
シト申ス。官軍新羅王ヲ誅セントト申ス。皇后下知シ
テ其綸ヲユルシ。遂ニ其國中ヘ入テ。財寶ノ入タル府庫
ニ封ヲツケ。繪圖書物ヲ收トリ。皇后ノ杖ニツキタマ
フ矛ヲ。新羅王ノ門ニタテ。後世ノシルシトス。或説ニハ
新羅王ハ日本ノ犬ナリトテニテ書ツケタマフ。是犬

追物ノヲコリナリトモ云リ。新羅王スナハチ人質ヲ
タテマツリ。金銀并色アル絹サヽゲ。船八十艘ニ
ツミテ奉ルコトヨリ毎年八十艘ノ貢物ヲタテマツル
ル。高麗王百濟王コレヲキヽテ。ヒソカニ人ヲツカハシ。日
本ノ軍ノ勢ヲウカヾヒ。敵對ナリガタキコトヲサトリ
テ。各自ラ皇后ノ御陣ニ參テ。頭ヲタヽキ平伏シ。今
ヨリ以後。求ク日本ヘレタカヒ。毎年ノ貢物ヲコタルヘ
カラズト申ス。新羅高麗百濟ヲ。三韓ト云。今ノ朝鮮
是ナリ。三韓スデニ平ケレハ。大矢田宿祢ト云人ヲ。新
羅ニ留テ鎮守將軍トシ。三韓ヲ下知セシメテ。皇后ハ
皈朝シタマフ。異朝ノ書ニハ。此時魏ノ帝ノ使者張政
ト云モノ來テ。日本ト三韓トノ。ツカヒノ事ヲ調フト

イヘリ　皇后筑紫ヘ皈リ皇子ヲ誕生ス應神天皇
是ナリ其所ヲ宇濕ト名ヅクコヽニヲヒテ皇后豊浦
ヘ皈リ仲哀天皇ノ喪ヲヲサメテ大和ヘ赴ク此時ニ
仲哀ノ妾ノ子麛坂王忍熊王二人兵ヲ起シ播磨國
ニテ皇后ヲ防キテ曰ク我ハ兄ナリ皇后ノ産トコロハ
弟ナリ何ソ從フヘケンヤト云フ其ヲリフシ麛坂王狩ニ
出テ赤キ猪ニ喰殺サル忍熊王ハ退テ山城國菟道
邊ニ陣ヲ張ル皇后武内宿祢ヲ大將トシテ忍熊王
ヲ伐ツ武内詐リテ曰ク忍熊王帝位ニ即ベシ皇后母
子從ヒ奉ラルベシト云忍熊悅テ油斷スル所ヲ武内
急ニ攻ケレハ忍熊破レ走リテ勢田ニ沉ミ死スコレニヨ
リテ皇后天下ノ政ヲ執行ヒ大和ノ磐余ノ宮ニ住タ

ヘフ仲哀天皇ノ葬禮ヲ執行ヒ産ルトコロノ皇子ヲ
太子トス異朝ノ魏ノ國ヘ使者ヲ兩度遣ス魏ノ國ヨ
リモ使者來朝ス互ニ贈物アリ又吳國ノ王孫權ハ日
本ヲ攻ントテ數萬ノ人數ヲ渡ストイヘトモ海上ニ
テ疫病ニカヽリテ死ルモノ多シ物ヒテ此皇后ノ事
ハ異朝ノ書物ニモ多ク書記タリ　在位六十九年
ニシテ崩ス時百歲

十六代

應神天皇　仲哀ノ御子ナリ御母ハ神功皇后ナリ胎
内ニヽシニヽス時仲哀崩御アリ皇后ノ腹ニヤドリタ
マヘハイヽダ生レズトイヘリ既ニ帝王ノ正統ナリトテ
胎中天皇ト申ス生レタマヽエル時御腕ノ上ニ肉高クア

ツ二リテ鞆ノゴトシ。鞆ハ艭ノコトナリ。此時分ニ艭ノ
名ヲポンダトイフニヨリテ。天皇ノ御名ヲ譽田天皇
ト申ス。神功崩シテ後。即位シタマフ。大和ノ輕嶋明
宮ニ住タマフ。蝦夷入ヲ召シテ。厩坂道ヲ造ラシム。
三韓ノ人ヲ召テ池ヲ掘シム。惣シテ此時ハ。三韓殘
ラス貢物ヲ奉リ。其國政モ皆日本ヨリ下知ス。武内
大臣此代ニモ政ヲ執行ヒケルガ。或時勅使トシテ筑
紫ヘ赴キケル間ニ。大臣ノ弟耳美内宿祢讒言シ申
ケルハ。武内筑紫ニテ。三韓ヲカタラヒ謀叛セントスト
奏ス。天皇怒テ使者ヲ遣シ。武内ヲ殺サシム。壹伎直
ノ真根子ト云モノ。武内ノ命ニ替リテ死ス。武内ハ。
竊ニ飯リテ科ナキ由ヲ申ス。天皇聞テ。武内ト耳美

内ト。神前ニテ湯ヲ探シメ。其實否ヲ決ス。武内勝テ。本
ノゴトク官職ニ復ス。湯起請ノ起リハ是ナリ
此代ニ百濟國ヨリ。王仁トイエル博士。論語等ノ書物
ヲ持テ來朝ス。太子菟道稚郎子是ヲ師トシテ。書ヲ
讀習フ。又絹ヲヌヘル者モ。絹織ル者モ。糸綿ツミヒク
モノモ。三韓ヨリ皆來ル。呉國ヨリ來シル者ヲバ。呉織
ト云。秦ノ始皇ノ子孫モ。後漢ノ帝ノ子孫モ。來朝ス
ル者アリ。或時天皇吉野ヘ行幸スルトキ。此山ノ興
ノ國樔ト云所ニスメル者參リテ。醴ヲ奉ルコトア
リ。吉野ノ國樔ノ内裏ヘ參ルコトハコレヨリ始レリ
在位四十一年ニシテ崩ス。御歳百十　此天皇欽
明ノ代ニ神ト現シ。豐前國宇佐宮ニ崇メ奉ル白幡

八流クダリ立タルイハレアルニヨリテ八幡大菩薩ト
申ス清和ノ御時山城國男山ヘ勸請セラレテ宗廟
トナレリ

十七代

仁德天皇　應神ノ御子ナリ母ハ仲姫ト云フ五百城
入彦皇子ノ孫ナリ誕生ノ日太菟ト云鳥來テ産殿
ヘ入ル同日ニ武内大臣モ子ヲウメリ鷦鷯ト云鳥來
テ其産屋ヘ入ル應神此ヲ聞テ實ニアヤシキコトナ
リ君臣其ノレルトリカヘテ名ヅケントテ皇子ノ
名ヲバ大鷦鷯ト云ヒ武内カ子ノ名ヲバ木菟宿禰
ト云フ應神在位ノ時末子菟道稚郎子ヲ太子ト
シテ國ヲ讓リ大鷦鷯ヲバ太子ノ輔トシテ政ヲ行シ
ム然ルニ應神崩御ノ後太子位ヲ大鷦鷯ニ讓ル大鷦
鷯ノカデカ兄ナリトモ父ノ意ニソムクベケンヤト云テ
ウケズ互ニ相讓ルコト三年ニテ帝位定ラズ太子ハ
菟道ニ二シテ大鷦鷯ハ難波ニラハシニス民ノ貢物
モ兩方ヘ持運ドモタガヒニユツリテトラズ太子宣ヒ
ケルハ我生テ天下ヲハジラハサンヨリハトテ自ラ死
シタマフ大鷦鷯驚テ行テ見レバ太子ヨミガヘリテ
和ヲカハシテ遂ニ死スコレニヨリテ大鷦鷯遂ニ即
位仁德天皇是ナリ攝津難波ニ都シ高津宮ニシマ
ス儉約ヲ好ミテ内裏ノ宮造リモ色ドリカザルコト
ナシ百濟ノ王仁難波津ノ歌ヲ奉テ祝ヲノブ在位ノ
四年ニアタリテ高キ屋ニ登リテ望見ニ民ノ竈ノ

煙火カリケレバ百姓ノ貧キコトヲ覺テ年貢ノ外ノ
課役ヲ免シ御衣ヤブルレド・モ改メ調ヘズ御殿クヅレ
テ雨風モレトモ修理スルコトナシ御膳ヲモ減ゼラル
カクテ三年ヲ歴テ又高キ屋ニ登リテ見タマヘバ
竈ノ煙甚繁ク立ツヲミテ百姓ノ富ルヲレリテ大
ニ悅フ五穀モ饒ナリケレバ百姓等内裡ヲ修理セン
ト望ム同心シタマヒズ又三年ヲ歴テ始テ内裏ヲ造
リケレハ百姓老タルモ少キモ皆力ヲ竭シテ幾程モナ
ク成就ス此天皇ヲ聖人ナリト譽タテマツルトナン或
時高麗國ヨリ鉄ノ楯鉄ノ的ヲ奉ル天皇其使者ヲ
内裏ヘ召シ盾人宿祢ニ命ジテ此鉄的ヲ射通サレタ
彼使者是ヲ見テ大ニ畏ル百濟國ヨリ酒君ト云人

來テ鷹ヲスヘテ天皇ノ御狩ニ供奉シ雄ラトル是日
本ニテ鷹狩ノ始ナリ武内大臣ハ景行ノ時ヨリ以
來成務仲哀神功應神ヲ歴テ此代ニ薨ス凡六代
ノ間政ヲ執コト二百四十餘年其齡三百十七歲
ト十ン或ハ三百三十歲トモ云リ子共多クアリテ
子孫繁昌ス　額田皇子ト云人鬪鷄ノ山中ニ狩シ
テ夏ノ氷ヲ得テ天皇ニ奉ルコレヨリ氷室トテ冬
ノ氷ヲ取テ春夏ニデ藏置コト始レリ
飛彈國ニ人アリ其名ヲ宿儺ト云身ハ一ツニシテ其
面二ツアリ手足各四ツアリカ強ク身輕シ弓矢ヲ
持劔ヲ佩テ人ヲナヤマス武振熊ト云人勅ヲ承テ是
ヲ討殺ス天皇治世ノ間晝夜心ヲ政ニ盡シ民ヲ惠

三タビイシカバ天下泰平ニシテ王化大ニ行ル
在位八十七年ニシテ崩ズ

十八代

履中天皇　仁徳ノ御子ナリ母ヲ磐之媛ト云武内ノ孫葛城ノ襲津彦ノ娘ナリ　仁徳崩御アリテ履中即位ナキ内田矢代宿祢ガ娘黒媛ヲ娶ト御弟住吉仲皇子ヲ遣シテ案内ヲ通ゼシム時ニ仲皇子ヲノレ天皇ナリト名ノリテ黒媛ヲカスル飯ルトキニ鈴ヲワスレテ媛ノ所ニノコセリ其明夜天皇媛ノ所ヘ行幸アリ鈴ヲ見テ此ハ誰ガ鈴ゾヤト云ヒ媛君ノ昨夜特來タリテ物ナリキト申ス天皇驚テ廿ニ日ハ仲皇子既ニ媛ヲカセリト知テ言ナクシテ飯リタマフ仲皇子此事アラハレヌトヲソレテ大ニ兵ヲ起シ内裏ヲ圍ム天皇少モヲモヒヨラズ酒ニ醉テ臥タマフ平郡ノ木菟宿祢物部大前阿知使主ニ人参テ俄ニフセグベキヤウモナケレバ天皇ヲ馬ニ扶ケ乘セタテマツリ河内ヘ逃行仲皇子天皇ノ逃出ハヲレラズ火ヲ放テ難波ノ内裏ヲ焼ク天皇大和ノ國ヘ越ヒ人數ヲ聚ム此時御弟瑞齒別皇子難波ヨリ馳參ル天皇汝モ仲皇子カ同類カト疑テ對面セスシテ曰ク若實ノ忠心ナラハ難波ニ飯リテ仲皇子ヲ殺スヘシ瑞齒別スナハチ木菟宿祢ト同道シ難波ニ飯リ仲皇子ノ近習ノ者刺領巾ヲカタラヒテ仲皇子ヲ厠ノ内ニ殺ス木菟宿祢瑞齒別ニ申ケルハ

刺領巾功マリトイヘトモ其已カ君ヲ弑セル者ナレバ
免スベキニアラストテ刺領巾ヲ殺ス仲皇子ノ同類
悉ク亡ビケレハ天皇都ヲ大和ノ磐余ニ定メ給フ
平郡木莵ト蘇我満智宿祢ト物部伊莒弗大連ト
圓大使主ト四人國政ヲ執ル御弟瑞齒別大功アルニ
ヨリテ太子ニ立ラル或時天皇御船ヲ内裏ノ前ノ
池ニ浮テ酒宴シタマフトキ櫻花御盞ノ内ヘ落ケ
レハ是ヲ賞ジテ内裏ノ名ヲ稚櫻ノ宮ト名ツケラル
諸國ニ文筆ニ達シタル者ヲ分チ置テ其國々ノヽトヲ
記シム　在位六年崩ス御年七十

十九代

反正天皇　履中ノ弟ナリ初ハ瑞齒別皇子ト申セシカ仲
皇子ヲ殺シテ功アルニヨリテ履中ノ讓リヲウケテ即
位河内ノ丹比ニ都ス柴籬宮トミラス　在位六年ニシ
テ崩ス

二十代

允恭天皇　反正ノ弟ナリ生レツキ多病ニテ御父兄
ノ心ニ叶ハズサレドモ仁孝ノ志アルニヨリテ反正崩御
ノ後群臣相談シ位ニ即シレメント申ス數度辭退シテ
從ハズ后忍坂大中姫シキリニスヽメ群臣ノ思ヨルトコロ
如何サレヲカサルヘキト申スニヨリテ一年餘ヲ歴テ
後即位シタマフ新羅ヨリ名ヲ聞テスグレタル醫者來テ療治
シケレハ御病モ愈ヌコレヨリ政ニ心ヲツケ百官諸
臣ノ姓氏ヲ改メタヽシ真偽ヲ決ス　皇后忍坂大中

姫ノ妹ヲ衣通姫ト云。容貌美シク。タグヒナキニヨリテ。天皇是ヲ召テ。大和藤原宮ニヲキテ。寵愛シタマフ。皇后妬ミ甚クシテ。自ラ焼死ナントト怒ルニヨリテ。衣通姫ヲ河内ノ茅亭宮ニ置ク。道ノ程隔タルニヨリテ。后ノ妬少シ止ヌ天皇度々茅亭ヘ行幸アリ。我セコガクベキヨイナリサヽグニノクモノフルニイカヲテレレモト云歌ハ衣通姫ノ天皇ヲシタヒテヨメル歌ナリ　在位四十二年ニシテ崩ス。御歳七十八　天皇ノ太子ヲ木黎輕皇子ト云。淫乱ニシテ國民シタガハス。其弟穴穂皇子。兵ヲ起シテ。太子ト相戦フ。太子逃テ死ス。或ハ伊豫國ヘ流ストモ云

二十一代

安康天皇　允恭ノ子ナリ。兄ノ太子ヲヲシノケテ即位ス。母ハ忍坂大中姫ト云。二女皇子ノ娘ナリ。大和國石上ニ都ヲ立。穴穂宮ニ居ス。天皇ノ叔父ヲ大草香皇子ト云。讒言ニヨリテ。天皇ノ心ニ叶ハザルコトアルニヨリテ。兵ヲ起シ。大草香ヲ殺。其妃中蒂姫ヲバ内裏ヘ召テ寵愛セラル。中蒂姫カ。大草香ノ所ニテ主タル子ヲ。眉輪王ト云。母ノ寵愛ニヨリ。同ク内裏ヘ出入スルナレドモ天皇ヘダツル心マーリケレバ。眉輪ノ王ヲソル。或時天皇。姫ノ膝ヲ枕トシ。臥時。眉輪ノ王ウカヽヒ來テ。天皇ヲ弑シタテマツル　在位三年歳五十六

二十二代

雄略天皇　安康ノ弟十リ安康弑サレヌト聞テ雄
略急キ甲冑ヲ帯シ兵ヲ率ヒ内裏ヘ赴ク眉輪王畏
テ我帝位ヲ求ズ只父ノ仇ヲムクユルノミ十リト云テ葛
城圓大臣カ宅ニ逃隠ル此時雄略ノ兄ニ坂合皇子八
釣皇子ト云二人アリ雄略此二人モ眉輪王ト同心カ
ト疑テ自ラ刀ヲ抜テ八釣皇子ヲ斬殺スコレニヨリ
テ坂合皇子畏テ眉輪王ト同ク大臣カ宅ニ逃入ル
雄略使ヲ遣シ坂合皇子眉輪王ヲ出セト云大臣
サスガニ忍ビカタクテ出サズ雄略大ニ怒テ大臣
カ宅ヲ圍テ火ヲ放ツ坂合眉輪王大臣皆焼死ス雄
略ノ従弟ニ市邊皇子ト云ハ履中天皇ノ子ナリ
雄略此人ノ帝位ニ立ン事ヲ疑テ此ヲ招キ

寄セ狩場ニテ射殺スコトヽニヲイテ雄略泊瀬朝倉ノ
宮ニテ即位平郡ノ真鳥ヲ大臣トシ大伴連室屋物
部連目ヲ大連トシテ政ヲ行ハシム天皇生ツキアラ
クシテ人ヲ殺コトヲ好ム罪ナクテ死スル者多シ人
皆譏リテ大悪天皇ト申ス又狩ヲ好テシバ〳〵遊獵ス
或時葛城山ニテ此山神一事參會シテ物語スルコト
アリ　此代ニ新羅高麗百濟互ニ不和ニテ日本
ヘ貢物ヲコタリシカバ官兵ヲ遣シコレヲシツメレム
三韓ノ内百濟専ラ日本ヘ従リ新羅高麗ハ従フコ
トモアリ背クコトモアリ　天皇在位二十一年ニ
アタリテ天照太神ノ神託アルニヨリテ二十二年ノ
九月ニ始テ豊受太神ヲ伊勢國度會郡山田原ニ

祠ラル。今ノ外宮是ナリ。同年丹波國水江浦嶋子
ト云モノ。舟ニ乗。釣ニ出テ。大ナル亀ヲ得タリ。亀化シ
テ女ト ナリテ。浦嶋ト夫婦ト ナリ。相共ニ蓬萊山ニ
至ルトイヒツタヘタリ。天皇在位二十三年崩ス歳
六十二。初ハ政アラカリケルガ。後ニハレヅカニテ國
家治ル

二十三代

清寧天皇　雄略ノ子ナリ。母ハ葛城韓媛ト云。圓大
臣ガ娘ナリ。清寧ノ弟ヲ尾川皇子ト云。雄略崩シ
テ後其母吉備稚媛ガスヽメニヨリテ。位ヲ奪ントス。大伴室屋大連東漢掬直等。星川皇子。并ニ稚媛
ヲ殺シテ。清寧。即位。大和磐余甕栗ニ都ス。大伴

室屋大連平郡真鳥大臣政ヲ執レリ。天皇生ナガラニ
シテ御髪白カリケレバ。白髮天皇ト名ヅケ奉ル
在位五年ニシテ崩ス

二十四代

顯宗天皇　履中天皇ノ孫。市邊皇子ノ子ナリ。市邊
皇子ハ雄略天皇ニ殺サル。其時顯宗幼少ニテ。兄ノ
仁賢ト共ニ身ヲヤツシテ。播磨國ニ
逃行テ明石郡ノ忍海部細目ニ仕ヘ。牛馬ヲ牧テ。其名
ヲ顯サズ。或時播磨國司山部小楯。明石郡ニ到ル。顯
宗ヨキ時節ト思ヒ。小楯ガ前ニテ舞謠テ。其舞ノ
中ニ履中孫ト云コトヲ謠フ。小楯大ニ驚キ。急ギ清
寧天皇ヘ奏聞ス。清寧子ナキニヨリテ。コレヲキヽテ

大ニ院ヒ顕宗仁賢相共ニ迎取テ養子トス。清寧
崩御ノ後。兄ナレハ仁賢即位シタ〻ヘトイヘ𪜈仁賢我
ハ兄ナレドモ弟ニシカス。其上小楯ニ逢テ。名ヲ顯ス
ニトモ皆弟ノ所爲ナリト言テ讓コレニヨリテ。其
姉飯豐皇女シバラク位ニツキテ。政ヲ行フ。此皇女
一タビ夫ト交テ後男女ノ道スデニ知レリト云テ。其
後ハ夫ニ會スルコトナシ。皇女位ニアルコト十月アリ〻
リニシテ崩ス。飯豐天皇ト云トモ。一年ニダニ及ハ
ヲ八王代ノ數ニイレズ。コヽニヲヒテ大臣大連等顯宗
仁賢ニ即位ノコトヲスヽム。兄弟猶互ニ讓ルトイヘ
トモ。仁賢カタク辭退スルニヨリテ。顯宗即位ス。和
八釣宮ニ住ス。ヲヒテ百官皆悅テ仕ヘタテマツル。三月

三日ニ。曲水宴ヲ開クコトハ。此御代ヨリ始ル。山部小
楯ニ山官ヲ授テ富榮ヘシム。山官ハ山ノ奉行ノ事ナ
ルヘシ。御父市邊皇子殺レシトキ。一所ニテ死シ者
ノユカリヲ尋テ慶美セラル。置目ト云ル老嫗アリ。
市邊皇子ヲ葬リ埋シ處ヲシリテ言上シケレハ。天皇
悅テ。其處ニ行テ。父ノ骨ヲ掘出シ歎キタヽフ。置目
ニ樣〻ノ賜モノアリ。大和國ニ猪甘ノ老人ト云モノ
アリ。天皇流浪ノ時。此老人ニ逢ケレハ。老人天皇ノ
ワヅカニタクハヘタル粮ヲ奪トレリ。此恨ニヨリテ。
即位ノ後。此老人ヲ呼出シ。飛鳥河原ニテ斬殺ス。其
一族ヲハ膝ノ筋ヲ斷切テカタハトス。其子孫ニ至ル
ニテ。代〻皆跛タリトナン。天皇治世ノ間。民ニ課役

ヲカクルコトナカリケレハ百姓富テ五穀豊ナリ
銀錢一文ヲ以テ稲一石ヲ買フ　在位三年ニシ
テ崩ス歳三十八

二十五代

仁賢天皇　顯宗ノ兄ナリ顯宗崩シテ後位ニ即タ
マフ大和石上廣高宮ニ住タマフ國家無事ニシテ
五穀豊ナリ在位十一年ニシテ崩ス

二十六代

武烈天皇　仁賢ノ太子ナリ此時平郡真鳥大臣雄
略ノ時ヨリ政ヲトリテ威ヲ振フコヽニ至リテ仁賢
崩御武烈イヽダ即位セサルトキ真鳥ヒソカニ帝
王タラント思フ志アリ此折節物部鹿鹿火ガ娘

影媛ヲ武烈娶ントスル處ニ真鳥ガ子鮪臣スヽヂニ
影媛ヲヨバカセリ又真鳥ガ家ニ馬アリ武烈是ヲ求
レドモ奉ラス武烈怒テ大伴金村ニ語テ數千ノ兵
ヲ金村ニ相添先鮪臣ヲ殺シ真鳥ヲモ攻殺ス（真鳥公武内ノ孫ナリ）武烈即位ノ後悪逆無道ナリ大和泊瀬列城宮
ニ居テ或ハ胎メル女ノ腹ヲサキテ其内ヲ見或ハ人ノ
爪ノ甲ヲ抜テ薯蕷ヲ掘シメ或ハ人ヲ木ニノボセテ
其木ヲ切倒シ或ハ弓ヲ以テ是ヲ射落ス或ハ人ヲ池
ノ樋ヘ入テ矛ヲ以テ突殺ス或ハ女ヲ裸ニシテ板ノ
上ニ居シメテ馬ヲ牽テツルヽシ其外奢ヲ極メ酒
色ニ耽リ人皆畏テ悪ニストヽ云コトナシ　在位八年ニ
シテ崩スヲ子ナシ　仁德天皇ノ王孫ハコヽニ至テ絶タリ

二十七代

繼體天皇　應神天皇五世ノ孫ナリ。應神ノ御子ヲ。二派皇子ト云。其子ヲ太郎子ト云。其子ヲ彦主人王ト云。是繼體ノ父ノ私斐王ト云。其子ヲ彦主人王ト云。是繼體ノ父ナリト云リ。繼體年久ク越前國ニ住タマフ。武烈崩レテ。仁德ノ王孫絶ケレバ。大伴金村大連物部麁鹿火大連巨勢男人大臣等相談シ。繼體ヲ迎ヘ奉ル。樟葉宮ニテ。金村御鏡寶劔神璽ヲ奉ル。繼體五度ニテ辭退スレドモ。金村等レキリニスヽメ申ニヨリテ。即位シタマフ。時歳五十八。金村男人。麁鹿火。三人政ヲ執ル。都ヲ山城筒城ニ遷シ。後ハ同國乙訓ニ都ス。其後ニ又大和磐余玉穗宮ニ遷ル。筑紫ニ磐井ト云者アリ。謀叛ヲ起シ。肥前肥後豐前豐後ヲ押領シ。三韓ノ貢物ヲ押ヘテ奪取ル。天皇金村ト議シテ。麁鹿火ヲ大將トシ。斧鉞ヲ授ケ。筑紫ノ事ハ汝ニ任ス。賞罰心ノ如シ。二行ヘ。奏聞ニ及ヘカラズト宣フ。麁鹿火即進發シ。御井郡ニテ合戰シ。磐井ヲ切テ。筑紫ヲレヅム。近江ノ毛野ト云者ノ。三韓ヘ遣シ。政ヲ行シム。毛野三韓ニ到テ。勅詔ヲ宣ルトキハ。高所ニ登テイヒワタス。三韓ノ諸臣庭ニヰリテ是ヲ承ル。此代百濟國ヨリ。五經ノ博士段揚尔ト云者來朝ス。其後高安茂ト云博士來テ。段揚尔ニ替ル　天皇在位二十五年ニシテ崩ス歳八十一。或ハ在位二十八年トモイヘリ

二十八代

安閑天皇　繼體ノ長子ナリ。母ハ目子媛ト云。繼體越前ニアリシ時ノ妃ナリ。天皇即位ノ後都ヲ大和ノ勾金橋宮ニ遷シタマフ。金村相繼テ政ヲ執ル。國家豊ニ五穀ミノレリ。在位二年ニシテ崩ス。吉野金峯山ノ神ハ此天皇ヲ崇トイヒツタヘタリ

二十九代

宣化天皇　安閑ノ弟ナリ。安閑子ナキニヨリテ位ニツク。都ヲ大和ノ檜隈廬入野宮ニ遷シテ住タマフ。蘇我稻目ヲ大臣トシテ。金村鹿火ニ加ヘテ。政ヲ執シム。天皇詔シテ曰ク。黃金萬貫アリトモ。凶荒ヲ救ヘカラズ。白玉千箱アリトモ。寒ヲ救ヘカラス。シカレハ。五穀ハ天下ノ本ナリトテ。稻目鹿火ニ命シテ。國々ニ御藏ヲ立テ。粮ヲ積タクハヘシム。タトヒ不慮ノコトアリトモ。人民ノ命ヲ救フベシトノ心ナリ。此時三韓ノ内ニテ。新羅ト任那ト爭フコトアリ。大伴狹手彥ヲ遣シテコレヲシヅメシム。狹手彥ガ妾松浦佐用媛別ヲヲシミテ山ニ登リテ。其船ヲ望ミ歌ヲヨムコトアリ。狹手彥ハ金村カ子ナリ　天皇在位四年ニシテ崩ス。歲七十三

三十代

欽明天皇　繼體ノ子ナリ。母ハ手白香皇后ト云。仁賢ノ娘ナリ。繼體即位以後ノ后ナリ。故ニ安閑宣化ト別腹ナリ。宣化崩シテ。欽明即位ス。都ヲ大和ノ磯城

嶋ニ遷レ金刺宮ニ住タマフ。此時三韓ニ亂アリテ。新羅高麗ニツニナリ。百濟任那ヲ攻ム。日本ヨリ百濟任那ヲ救フ。日本ノ使者膳臣巴提使ト云者。百濟ヘ赴ク。路次ニテ雪ニアヒ海邊ニ一宿ス。其携タル小兒ヲ虎食殺ス。巴提使怒テ。其足跡ヲ尋テ山中ニ入。虎口ヲ開テ進ミ來ル。巴提使左ノ手ニテ虎ノ舌ヲ握リ。右ノ手ニ刀ヲ取テ。虎ヲ刺殺シ。其皮ヲハギトリテ飯朝ス　天皇治世ノ十三年ニアタリテ。百濟王使者ヲ獻ジ。釋迦佛像并幡天蓋并佛經ヲ獻ル。天皇悅ブ。大臣稻目コレヲ拜シ。ヲトスム。物部尾輿等申ケルハ。本朝神國ナレバ。天皇ノ拜シタマフ神多シ。イカデカ異國ノ神ヲ拜セン。恐クハ本朝ノ神ノ怒ヲイタスベシ。此ニヨリテ天皇拜セズ。其像ヲ稻目ニタマハル。悅テ拜受ス。其家ヲ捨テ寺トシテ。向原寺ト号ス。佛像ヲ安置スコレ日本ヘ佛法渡リテ伽藍ヲ作ル初ナリ。幾程モナク諸國ニ疫病ハヤリケレバ。尾輿等コレ佛ノ災ナリト申スニヨリテ。佛像ヲ難波堀江ヘ捨テ寺ヲ燒。其後又再興セラル。又百濟國ヨリ。五經博士易博士曆博士醫博士ヲ并ニ藥ヲ三シル者ヲタテマツル。沙門ヲモ十餘人奉ル。高麗新羅ハヤヽモスレバ。日本ヲ背クニヨリテ。大伴狹手彥ヲ高麗ヘ遣シ是ヲ攻ム。狹手彥進テ王宮ニテ攻入ル。高麗王ワツカニ免テ逃ル。其寶物ヲ取テ天皇ニ獻ジ。又大臣稻目ニ贈ル。新羅ヘ遣サル官軍ノ中。伊企儺ト云モノアリ。

新羅ヘ生捕レケレハ降參セヨト云從ハヌ新羅人カ
ヲ拔テ是ヲヲドシ伊企雞カ臀ヲ日本ノ方ヘ向ハレメ
日本ノ將我臀クラヘト云ベシト責ケレハ伊企雞聲
ヲ揚テ新羅王我臀クラヘトヨハハ敵怒テ是ヲ殺
ス其後新羅モ又日本ヘナビク　天皇ノ末年ニ始テ
神託アルニヨリテ八幡大神ヲ豐前ノ宇佐郡ニ崇
祠ラル山城國加茂明神モ此代ニ初テ祭ラルト云リ
天皇在位三十二年ニシテ崩ス

三十一代

敏達天皇　欽明ノ太子ナリ母ハ石姫ト云宣化ノ
娘ナリ天皇即位ノ始物部守屋ヲ大連ト蘇我
馬子ヲ大臣トス守屋公尾輿カ子ナリ馬子ハ稻目カ
子ナリ此時高麗ヨリ表ヲ奉ル烏ノ羽ニ書ケレハ學士
シテ見知ユトナシ壬辰ノ年ト云者是ヲ飯ノ上ニ置
テ蓋テ帛ヲ以テ烏ノ羽ノ上ヲヲヽレケレハ其文字皆帛ニ
鏡テ是ヲ讀ム人皆感ス其後内裏ヲ譯語田ト云所ニ
立テ都レモフ百濟ヨリモ新羅ヨリモ佛像經論ヲ
奉ル天皇ハ文史ヲ好テ佛法ヲ信セス天皇ノ御姪
厩戸皇子并馬子ノ大臣甚好ミテ崇敬ス此時又
疫病ハヤリケレハ守屋奏聞シケルハ是馬子カ佛
法ヲ信スルタヘリナリヨロシク佛法ヲ斷絶スヘシト
申ス天皇然ルヘシトノタマフ守屋即チ自ラ寺ヘ
赴キ堂塔ヲ打毀リ佛像ヲ燒捨其灰ヲ難波堀
江ヘ流ス僧尼ノ衣ヲハギテ追放ス馬子涙ヲ流シ

テ悲ム其後馬子病気ニヲカサレケレバ奏聞シテ
ロレガ病佛力ニアラズンバ愈ガタシト申ス天皇キ
コレメシテ汝獨佛法ヲ行ヘトユルレタマフ馬子コヽニ
ヲキテ又佛法ヲ再興ス　天皇在位十四年ニシ
テ崩ス歳四十八或說ニ二十四ト云ルハアヤマリナリ

三十二代

用明天皇　欽明第四ノ子母ハ堅塩媛ト云蘇我稻
目カ娘ナリ敏達崩ジテ用明即位ワヅカ二年ニシ
テ病ニカヽリタマフ佛ニ祈ント議ス守屋并中臣勝
海ユレ無益ノコトナリト諫ム馬子誰カ勅定ニ從
ハザラントテ豊國法師ト云者ヲ内裏ヘ呼寄ケレ
バ守屋ニラミイカル天皇ノ御子厩戸皇子ト馬子

トハナハタ睦シスデニシテ天皇崩ス守屋ヒソカニ天
皇ノ弟穴穂部皇子ヲ立テントス馬子從ハズ穴穂
部ヲ殺ス遂ニ厩戸并諸皇子達ヲカタラヒ軍ヲ起
シテ守屋ヲ攻ム守屋拒戰テ三度勝ツ其後跡見
赤檮ト云者ノ矢ニ守屋ニアタリテ死ス其一族皆
亡ブ厩戸皇子始テ攝州四天王寺ヲ作ル守屋ヲ
討ツ時ニ祈念スルユヘナリ守屋カ領地一萬頃ヲ
分テ赤檮ニ給リ其外ヲバ皆天王寺ノ領トス厩戸
皇子ハ聖德太子ノコトナリ其誕生ノ時母厩邊ニ
ヤスラヒテ産スルユヘニ厩戸ト云用明天皇愛シテ
内裏ノ上ノ宮ニ置ユヘニ上宮太子トモ云生ツキサト
クカシコキユヘニ聖德太子ト云又八人シテ奏スル

コトヲ一度ニ聞テ決スルユヘニ八耳太子トモイフ豊
聰トモ云コレモ耳ノハヤキ義ナリ

三十三代

崇峻天皇　用明ノ第十リ馬子カハカラヒニテ即位
馬子甚ダ威ヲ振ヒケレバ天皇コレヲ悪ム或時山猪
ヲ奉ルモノアリ天皇コレヲミテイツカコノ猪ノ頸ヲ
切コトク我キラフ者ヲ斬ベキト宣フ厩戸皇子モ
此時御前ニ侍ルトナシ宮女寵衰テ天皇ヲウラム
ル者アリ此事ヲ馬子ニ告グ馬子畏テ勇士東漢
直駒ト云者ヲカタラヒ御寝所ニ入テ天皇ヲ弑レ
奉ル　在位五年東漢直駒ヒソカニ馬子カ娘河上
姫ニ通ズ馬子怒テコレヲ捕テ樹ニ縛付射殺テ其首
ヲ斬ル此時三韓ノ押ノタメニ日本ノ官軍數萬筑紫
ニ陳ス馬子急キ使ヲ遣シ都ニ亂アレドモカハルコト
ナシサハグコトナカレト相鎮

三十四代

推古天皇　女帝　欽明ノ御娘用明ト同腹ナリ敏達ハ別
腹ナリ故ニ十八歳ノ時敏達ノ后トナル敏達崩シ
テ用明崇峻皆程ナク崩スルニヨリテ蘇我馬子カ
ハカラヒニテ推古即位ス時歳三十九神功皇后女
主ニテ天下ノ政ヲ聞ユヘニ王代ノ數ニ入トイヘドモ
イマタ真ノ天子ノ位ニハツカズ故ニ皇后ト云テ
天皇ト云ズ推古ニ至テ真ノ天皇ノ位ニツク日本
女帝ノ始メナリ御姪厩戸皇子ヲ太子トシテ攝

政セレ。是攝政ノ始ナリ。太子時ニ歳二十一。馬子
ト心ヲ同シテ。佛法ヲ興シ。伽藍ヲ建立ス。三韓ヨリ
名アル僧多ク來ル。天皇ハ小墾田ノ宮ニ。シ。
太子ハ斑鳩宮ニ居テ。甲斐驪駒ニノリテ。毎日天
皇ヘ出仕ス。太子自ラ憲法十七箇條ヲ定メ。世ニ
行フ。憲法ハ。法度ノユヘナリ。又大德小德。大仁小
仁。大禮小禮。大信小信。大義小義。大智小智トイ
ヘル十二ノ冠ノ名ヲタテ。其冠ノ色ヲカヘテ。十二階
ノ位ヲ定ム。此異朝ニテハ。隋ノ煬帝ノ時ニアク
レリ。日本ヨリ。小野妹子ヲ使トシテ。隋ヘ遣ス。其書
簡ヲ太子書レケル。其辭ニ。日出ル處ノ天子書ヲ致
ス。日沒處ノ天子羔ナシヤト云ヘリ。煬帝是ヲ見テ。文
言無禮ナリトテ。悅ス。妹子歸朝ノ時。隋ヨリ使者裴
世清ヲ添テ。日本ヘ來朝ス。都ヘ入。官人ヲ遣シテ是
ヲ迎ヘシム。世清煬帝ノ書簡ヲ持シテ。參内饗應
ヲタマハル。世清歸トキ。又妹子ヲ添テ遣サル。此度ハ
高向玄理ト云人。學問ノタメニ。妹子ニ從テ。隋ヘ赴ク。
年ヲ歷テ。妹子歸朝ス。玄理ハ。三十餘年ヲ經テ歸朝
セリ。俗說ニ。太子ハ南岳思大和尚ノ生レガハリ。其前生
所持ノ法華經ノ南岳ニアルヲ。妹子ニ云ヒフクメテ取
寄ラルトイヘトモ。日本紀ニハ見ヘ侍ラズ。其後隋ノ代
亡テ。唐ノ代トナルニヨリテ。大上ノ御田鍬ト云者ヲ勅
使トシテ。大唐ヘ遣サル。是遣唐使ノ初ナリ。太子馬子
ト相議シ。日本前代帝王ノ紀ヲツクル。今ノ舊事本記

是ナリ。太子攝政スルコト二十九年ニシテ。天皇二廿
キタチテ薨ス。歳四十九。常ニ慈悲ノ心深シテ殺生ヲ
好マズ。群臣ヲ勉食スルニモ菜膳ヲ用ユ。專佛法ヲ信ジ
テ。或ハ經ヲ講釋シ。或ハ經ノ註ヲ作ル。天王寺ノ外寺ヲ
造ルコト九箇所ナリ。或時太子。片岡ヲ過ルトテ。餓者
ヲ見テ。衣食ヲ賜フ。其餓者歌ヲヨミテ奉ル。其後餓者死
ス。太子是ヲ葬リ。此者タヾビトニアラズト思テ。後日ニ
墓ヲ開テ見レバ。衣服バカリアリテ。其屍ナシ。後世
ニ是ヲ文殊ノ化現ナリト云リ。禪家ニハコレヲ達磨ナリ
ト云リ。太子薨シテ後。馬子猶政ヲ執テ。三寶ヲ信ズ。
或時僧ノ中ニ。斧ヲ執テ。其祖父ヲ打者アリ。コレニヨリテ。
馬子奏聞シ。百濟ノ僧觀勒ヲ僧正トシテ。僧中ノ事ヲ

司ドラレム。此僧官ノ始ナリ。此時天下ノ寺數四十六所
八百十六人。尼五百六十九人アリシカ。此後次第ニ多
クナレリ。高麗ヨリ。惠灌ト云僧來テ。三論宗ヲヒロム。
其後馬子モ死ス。敏達ノ時ヨリ。此時マデ。大臣ノ位ニ
居ルコト。五十五年ナリ　天皇在位三十六年ニシテ
崩ス。歳七十五

三十五代

舒明天皇　敏達ノ嫡孫。押坂彦人皇子ノ子ナリ。推古
崩スル時。舒明ヘ遺勅アリナイ〳〵トモイヘ。太子ニ立ス
コレニヨリテ聖德太子ノ子山背王モ帝位ニ望ミアリ。
大臣蘇我蝦夷（馬子ガ子）群臣ヲ聚メ。イヅレカ然ルヘキト相
談シ。推古遺言ヲ用テ舒明ヲ立テ天皇トス。飛鳥岡

本宮ニ住タマフ。即位ノ後大上三田鍬等ヲ遣唐使トス。其歸朝ノ時大唐ヨリ高表仁ト云ル者勅使ト同道シテ來朝セリ。難波ニテ迎船ヲ遣ス。歸國ノ時對馬ニテ送ラレム。是唐ノ太宗皇帝ノ時ニアタレリ。此代ニ三韓皆從ヒ世モ治リシカドモ彗星度々出。其外メヅラシキ星見ヘ。又大風霖雨等モアリ。惠隱ト云ル僧ヲ宮中ヘ召テ無量壽經ヲ說シム。內裏ニテ齋ヲ設ケ經ヲ講スルコトコレヨリ始レリ　天皇治世ノ間攝州有間ノ溫湯ヘモ行幸アリ。又伊豫ノ溫湯ヘモ行幸セラル。其外方々ヘ遊獵セラル　在位十三年ニシテ崩ス

三十六代

皇極天皇　女帝　敏達ノ曾孫押坂彥人皇子ノ孫茅渟王ノ娘ナリ。舒明ノ后トナル。舒明崩シテ后天皇ノ位ニ即ク。飛鳥ノ板蓋宮ニ住タマフ。蘇我蝦夷大臣トナリテ政ヲ行フ。三韓ヨリ使者來テ舒明ヲ弔ヒ。皇極ノ即位ヲ賀ス。其年大ニ旱シケレバ樣々ニ神ニ祈リ。又蝦夷ガハカラヒニテ經ヲ讀佛ニ禱レドモ雨降ズ。天皇自ラ南淵川ニ行幸アリテ四方ヲ拜シ。天ニ祈リシカバ五日ノ間大雨打續テ民皆大ニ悅ビ萬歲ト呼ブ。此時大臣蝦夷奢ノアマリニ己カ祖廟ヲ葛城ニ造リ。其儀式天子ノ歌舞ヲ執行フ。蝦夷カ子ヲ入鹿ト云。其威勢父ヨリモ勝リ。自ラ國ノ政ヲ執行フ。人皆ヲソレ入鹿ガ一名ヲ鞍作ト云リ。蝦夷病ニ罹ケレバ其著スル紫ノ冠ヲ私ニ入鹿ニ讓リ。大臣ニ准ス。入鹿イヨイヨ威ヲ振フ。聖

德太子ノ子山背王ト入鹿不和ナリケレハ巨勢德太師
連ニ兵ヲソヘテ山背王ノ住ル班鳩宮ヲ攻ム山背王ノ
奴三成ト云者一人當千ノ兵三テ拒ギタヽカフ士師連
討レヌ入鹿カ兵引退ク其隙ニ山背王馬骨ヲ取テ
室内ニ置キ其妻子ヲトモトヒ竊ニ逃出テ檜駒山ニ
カクル三輪君田目連等從ヘリ巨勢德又進テ班鳩宮ヲ燒
テ灰燼ノ中ニ燒タル骨多ケレハ山背王燒死給ヘリト思ヒテ
ヤカテ圍ヲ解テ引退ク三輪君申ケルハコレヨリ竊ニ東國
ニ向ヒ軍ヲ起スヘシ入鹿ヲ亡セト云フ山背王我一人ノユヘヲ以
テ萬人ヲ煩スベカラズト云テ從ス西五日ヲ歷ルウチニ入鹿
聞付テ軍兵ヲ遣レテ是ヲ尋ス山背王竊ニ山ヲ出テ班鳩
ニ歸リ三輪君ヲ使トシテ我軍ヲ起サハ勝ヘキ道アリ然ニ

人ヲナヤマスコトヲカナシム故ニ我身ヲ入鹿ニアタフ
ルナリトテ妻子相共ニ自害シテ亡フ山背王ハ聖德
太子ノ子ナレハ世ノ人皆ヲモンミテ威勢アリシヲカ
ク亡シケレハ入鹿ニスヽ逆威ヲ振フ世ノ人入鹿ヲ
惡ニスト云フコトナシ此時様々ノ怪異アリ
天皇治世ノ三年正月ニ中臣鎌足ヲ神祇伯ノ官ニ
任ス病者ナリト云テ辭退シ三嶋ト云所ニ居ス此時天
皇ノ弟ニ輕皇子ト申ス人アリ鄕氣ヲ煩ヒテ出仕シ
タマハズ鎌足ト中ヨカリケレハ輕皇子ノ許ヘ參テ宿
直ス輕皇子其志ヲ感シ元來タヽ人ニアラサルコトヲ
知テ寵愛ノ女ヲ鎌足ニ遣シ懇ニウヤマフ鎌足モ過
分ノコトニ思ヒ輕皇子ノ舍人ニ向テ云ケルハ此皇子ヲ

天下ノ主トナレタテマツリ此恩ヲ報ゼント願フトカタ
レバ輕皇子憲聞テ大ニ悅ブ舒明天皇ノ御子ニ中大
兄皇子ト申マツリコレモ大キナル志アリ鎌足元來智惠
有テ世ヲ救ヒ正サントト云フ志アリ蘇我入鹿カ君臣
禮ヲ失ヒ社稷ヲウカヽフ企アルコトヲ憤テ諸ノ皇
子ノ内ニ功名ヲ立ヘキ人ヲ求テ見ルニ中大兄ニ如クハナ
シ然レドモ志ヲ云フ便リナシアルトキ中大兄法興寺
ノ槻木ノ下ニテ毬ヲ打ツ時鎌足モ其會ニアツカレ
リ中大兄ノ皮履ノヲツルヲ見テ鎌足掌ニスエテ跪テ
奉ル大兄モ跪テ受玉フ是ヨリ交リ中ヨク成テ互ニ心
中ヲカクサズ昵バレケルカ人ノ疑フ事モコソアレトテ
南淵先生ト云ヘル儒者ニ道ヲ問トテ大兄モ鎌足モ手

ニ書ヲ取テ周公孔子ノ教ヲ學バル其往還ノ道スガラヒ
ソカニ密事ヲ謀ル鎌足申サレケルハ大事ヲ謀ル者ハ助ケ
アルニハシレカレ願クハ蘇我倉山田麻呂カ女ヲ娶テ昵近
ツキ其後謀テ功ヲナサバ速ニナルベシト云フ大兄聞テ
其儀ニ隨フ鎌足自ラ往テ媒ヲナレ彼女ヲ大兄ニス、
ム鎌足又佐伯子麻呂蒼城綱田トイフ二人ヲ舉用テ
大兄ニスヽム是謀ヲハシレラズレテ入鹿新ニ家ヲ造リ
父蝦夷カ家ヲモ宮門ト名ツケ男女ノ子
共ヲハ王子ト稱ス家ノ外ニ城ヲ構ヘ藏ヲ作テ武具
ヲタクハヘ置水船ヲ多ク造テ火災ノソナヘトス父子
共ニ出入スルコトニ勝レタル勇士ニ人ヲ撰テ從ヘ
家ニ居ルトキモ用心ヲコタルコトナシ同四年六月朝

日ヶ大兄倉山田麻呂ニ語テ曰ク。三韓貢ヲ奉ルノ
日。必沒ヲレテ。其表狀ヲ讀レムヘシ。其時入鹿ヲ斬ル
ベキノ謀ヲ告ラル。倉山田麻呂同心レス。此月十二
日。天皇大極殿ニ出タマフ。鎌足。入鹿ガ心ニ人ヲ疑ヒ。
晝夜劒ヲ持ニトヲ知テ。ワサヲキノ者ニオシエテ。タハカ
リテ劒ヲ解レム。入鹿笑テ劒ヲサレヲキ。御前ノ坐ニ
列ス。ワサヲキハ。今狂言スル者ノ類ナリ。倉山田進デ
三韓ノ文ヲ讀ム。爰ニ中ノ大兄衛士等ヲ警テ。十二
ノ御門ヲ閉。人ノ往來ヲ止メ。衛士ヲ一所ニ召聚テ。
祿物ヲ賜ハントテ云謀ノ沙汰アリ。サテ中ノ大兄ハ自ラ
長キ戈ヲ取テ。御殿ノワキニカクレ。鎌足ハ弓矢ヲ取
テ守ル。勝麻呂ト云者ニ。啓ヲ持セテ。子麻呂・細田ノ

兩人ニ授ク。啓中ニ一ツノ劒アリ。速ニ入鹿ヲ斬レ
トイヘリ。モ子麻呂ヲソレケレハ。鎌足コレヲ勵スサレド
モ。倉山田文ヲ讀果ントスレドモ。子麻呂進ミ來
ラサル故ニ。汗ヲ流レ。聲フルイ。手ワナヽク。入鹿怪ン
デ問テ云ク。何故ニフルイワナヽクヤト云フ。倉山田
答テ云ク。御前近キ故ニ。最恭ク。汗ノ流ルヽヲボ
ヘズト云ヘリ。中ノ大兄。子麻呂等カ入鹿ヲ畏テ進ミザ
ルヲ見テ。嗤嗟レテ。スナハチ子麻呂等ト同時ニ劒
ヲ取テ。入鹿カ頭ト肩トヲ斬ル。入鹿驚テ立ントスル
鬼ヲ。子麻呂劒ヲ振テ入鹿カカタ足ヲ斬ル。入鹿コロビ
タヲレテ。頭ヲタヽキ。御座ニ向テ云ク。臣何ノ罪ト云コ
トヲシレラズ。明ニ察レタマヘト云フ。天皇モ大キニ驚キ

玉ヒテ中大兄三詔シテ是何事ゾヤトノタマフ中大兄
平伏シテ奏聞シテ曰ク入鹿諸王子ヲ滅シテ寶祚ヲ
傾ントス如何ソ天位ヲ以テ入鹿ニ易ンヤト云天皇ス
ナハチ立テ内ニ入玉ヒヌ子麻呂細田遂ニ入鹿ヲ斬
殺ス此日雨降テ潦水庭ニ滿リ庭障子ヲ以テ入鹿
ガ死骸ヲ掩フ中大兄ハ其ヨリ法興寺ニ城ヲ構フ諸
皇子達皆從フ又蝦夷ガ方ヘ赴ク者モアリ中大兄人
ヲシテ入鹿ガ死骸ヲ蝦夷ニタヾハル又巨勢德ヲ大
將トシテ蝦夷ヲ攻シメ其黨類ニ告テ曰ク古今ノ
間誰カ君臣ノ道ヲ知サラン何ゾ賊臣ニ從フヤトイヘ
バ蝦夷カ徒黨皆逃去ス蝦夷スナハチ家ニ傳レル舊
記并ニ財寶共ニ焼捨テ後其身モ誅セラレヌ眞時日本

前代ノ記録多ク失タリ其焼殘ル所ヲ舩史惠尺トリ
ヲサメテ中大兄ヘ奉ル天位ヲ中大兄ニ讓ントスルカ
レドモ中大兄ノ兄三人皇子ト云人アリシヲコヽテ
即位如何アルヘキナレバ先御叔父輕皇子ヲ即位セ
レメタヽハヽ神妙ナルヘシト鎌足申ケレバ中大兄尤
ナリト同心シテスナハチ帝位ヲ輕皇子ニ讓ル是モ
古人ヘ讓ル古人ハ入鹿ト眤シキニヨリテ彼滅亡ヲ
悼テ位ヲ辞シテ僧トナル コレニヨリテ輕皇子位ニツク
孝德天皇是ナリ中大兄ハ後ニ天智天皇ト申ス鎌
足ハ藤原氏ノ元祖大織冠是ナリ此末所々ニテ申
スベシ帝王存生ノ内ニ位ヲ讓ルコトハ皇極ヲ始トス

三十七代

孝德天皇　皇極ノ弟ナリ。入鹿誅セラレテ後御姉皇
極ノ讓ヲ受テ即位。此時大伴長德。大上。健部。金勅ヲ
帶テ御前ノ左右ニ立ツ。百官列拜ス。皇極ニ尊号ヲ
奉テ皇祖母尊ト云フ。中大兄ヲ以テ太子トス。阿倍倉梯
麻呂ヲ左大臣トシ。蘇我倉山田麻呂（石川ト日本紀ニアリ）ヲ右大臣トス。此
左右大臣ノ始ナリ。鎌足ニハ錦冠ヲ賜リ。内大臣ト云
フ官ヲ授テ。食祿ヲ加增シ。百官ノ上ニ居テ。天下ノ政
ヲ任セラル。入鹿亡テ國家無事ナルハ。此人ノ功ナリ。其後ニ
又紫冠ヲ賜リ。食祿ヲモ加ヘラル。高向玄理ト。僧旻ヲ博
士トス。二人共ニ入唐シテ學問シタル者ナリ　始テ年
号ヲ立テ。大化元年トイフ。八省百官ノ各モ皆此時定
ル。冠ヲ十九ツクリ。其色ニヨリテ。位ノ階ヲ定ム。都ヲ難波

長柄ノ豐碕ニ遷シ。新ニ内裏ヲ造ル。大化二年正月元日
群臣朝拜ノ禮始テ畿内并國々ニ司ヲ置。關所并ニ
驛傳ヲ定メ。山川ヲ分チ。郡ノ大小ヲ限リ。里々ニ長ヲ
スヘテ。民ノ家數人數。年貢并ニ土產ノ品々。武具馬
具等ノ事ニテ勅ヘ定ム。家數百アル所ヨリ采女一人
ヅヽ奉ラシム。采女ハ其所ヨリ然ルベキ女ヲエラミテ。宮
仕セシムルヲ云フ。國々ヘ使者ヲ遣シ。國司ノ善惡ヲ
勘テ。是ヲ賞罰ス。又諸國ニ庫ヲ作リテ。武具ヲタクハ
ヘ置ク。右大臣蘇我倉山田麻呂勅ヲ承テ。群臣ニ
命シテ諫言ヲ獻ゼシム。其外朝廷ノ儀式此時定ル
コト多シ。太子中大兄ノ皇子。内臣中臣鎌足ト相議
セラルヘシ。大化五年ニ。左大臣阿倍倉梯麻呂薨ス

同年ニ右大臣蘇我倉山田麻呂ガ弟蘇我日向讒言ヲ構ヘ。右大臣逆心アルヨシヲ奏ス。右大臣ハ討手ヲ遣サル。右大臣少モ官軍ニ敵對セズ。其妻子ト共ニ自害ス。其後右大臣罪ナキ證據アラハル、ニヨリテ。日向ヲ筑紫ヘ遠流セラル。コレニヨリテ。巨勢德ヲ左大臣トシ。大伴長德ヲ右大臣トシテ。共ニ大紫ト云フノ冠ヲ賜ル。其明年長門國ヨリ。白雉ヲ獻リケレバ。是ハメデタキ事ナリト。各言上シケレバ。天皇ヨロコビテ。内裏ヘ百官ヲマツメ。ニレヲ見セシム。其儀式元日朝賀ノゴトシ。白雉ヲ輿ニノセ。四人ノ臣ヲシテ。コレヲ庭ヨリ殿上ヘ舁ケレム。左右大臣コレヲ請取テ。御前ニ置ク。即年号ヲ改テ白雉ト云フ。長門ノ國司ニ位ヲ授ケ。天下ヘ大赦ヲ行ル

白雉二年始テ繡佛ヲ作ル。其長一丈六尺。其外千佛像ヲ刻ム。又内裏ヘ二千百餘人ノ僧尼ヲ聚メ。一切經ヲ讀シメ。二千七百餘ノ燈ヲ燃ス

白雉四年三吉士長丹等ヲ勅使トシテ。遣唐船ヲ發セラル。唐ノ高宗皇帝ニ見ヘテ歸朝セリ。此勅使ニ從テ。和州多武峯ノ開山定惠モ其外名アル僧多ク入唐ス。定惠ハ鎌足ノ子ナリ。此代ニ新羅高麗百濟毎年貢物ヲ奉ル。其數少ケレバ。是ヲ改テ責ハタル。或時新羅ノ使者唐人ノ裝束ヲ着テ。筑紫ニテ來リケルヲ聞シメシテ。日本ノ風俗ニ異ナリ。怒テ。コレヲ追歸サル。巨勢大臣コレヲ伐ント奏聞シケレドモ。

其義ニ及ハズ　天皇在位大化二年白雉五年合テ十
年ニシテ崩ス

三十八代

齊明天皇　女帝　皇極ノ別號ナリ。孝德崩シテ。皇極再ビ
帝位ニ復ス。齊明天皇ト申ス。是重祚ノ初ナリ。一度
位ヲ去テ重テ即位スルヲ重祚ト云フ。太子中大兄ノ
ハカラヒニテ。難波ヨリ大和ノ飛鳥ノ板蓋宮ヘ都ヲ
遷ス。コレヨリサキ。難波鼠多ク連テ。大和ノ方ヘ向ヒ
ケルカ。遷都ノ兆ナリトソ。其後飛鳥ノ岡本ノ宮ヘ遷タ
ニ。内臣中臣鎌足政ヲ行フ。四年ノ冬。天皇太子ト。
紀伊國ノ温湯ニ行幸ス。蘇我赤兄都ノ留守タリシガ。
孝德ノ子有馬皇子ニカタリテ。天皇政ヨロシカラスト

云ヒケレバ。皇子喜テ。謀叛ノ志アルコトヲ密談ス。赤兄
イツハリテ許諾シ。ス十八チ皇子ノ宅ヲ攻テ。皇子ヲ
捕テ紀州ヘ遣ス。太子直ニ是ヲ尋問テ。其逆謀分明
ナリケレバ。有間皇子ヲ。藤代坂ニテ。クビリコロス。時ニ十
九歳。其同類或ハ殺サレ。或ハ流罪セラル。或ハ有間皇子。
紀州岩代ノ松ノ枝ヲ結ヒ。歌ヲヨミテ。頸ヲクビリテ死
ストモ云リ。同年阿部比羅夫ヲ大將トシテ。肅慎ノ
國ヲ討テ。生タル羆二ツ。并ニ羆皮七十枚ヲ得タリ。
肅慎國ハ北方ノ國ニテ。韃靼ノ内ナリ。比羅夫又船軍
ヲ率テ。蝦夷ヲ平ケテ。飯ル。蝦夷ハ日本武尊東征
以後。王化ニ從フコトモアリ。又叛クコトモアリ。興廢
比羅夫太勝利ヲ得テ政所ヲ置テ歸ル

五年遣唐使ヲ發ス。勅使坂合石布津守吉祥ニ蝦夷人ヲ添テツカハサル。太唐ノ高宗皇帝ニ見ユル時。先日本ノ天皇恙ナシヤト問。次執事等モ無事ナリヤ。國中モ平ナリヤト問テ。其後蝦夷ノ事ヲ問ル。蝦夷人モ弓矢并鹿皮ヲ唐帝ニ奉ル

六年九月。百濟國ヨリ使者來テ言上シケルハ。去七月ニ。新羅兵。大唐ノ軍ヲカタラヒ來テ。百濟國ヲ打破リ。君臣皆生捕ラル。百濟ノ大將福信ト云フモノ。ツカニ殘レル兵ヲ以テ。新羅ノ兵ヲ退タリ。願クハ。日本ニ人質トナリテアルトコロノ。百濟皇子豊璋ヲ迎ヘトリテ。百濟ノ王トアフギ日本ノ加勢ヲ乞テ國ヲ再興セント請フ。天皇許容シ。豊璋ヲ百濟王トシタマフ。則兵船ヲ作リ。武具ヲ調ヘ。先難波ニテ行幸。太子中大兄攝政シ。諸國ノ軍ヲ召アツメタマフ。備中國下ノ郡ノ一郷ヨリ。人數二萬ヲ出シケレバ。其郡ヲ号シテ二萬郷ト云。明年ノ春。御船進發シ。伊豫ニ泊リ。土佐ノ朝倉ニ到ル。此所ニ社アリ。其神木ヲ切テ。假ノ内裏ヲ造ル。神ノタヽリニヤ。御殿タチマチ。クヅレテ死スル者多シ　同年ノ七月ニ。天皇朝倉ノ宮ニテ崩御ニシマス　在位初度三年半。重祚七年。合テ十年ナリ。皇極ト齊明トハ。一人ニテ二ツヽトモ。後世ニ二ツノ謚ヲタテ。前後ノ御治世ヲ分ツナルヘシ

王代一覽卷之一終